

北海道産木材の需要拡大に向けて

森林整備部資源活用第一課

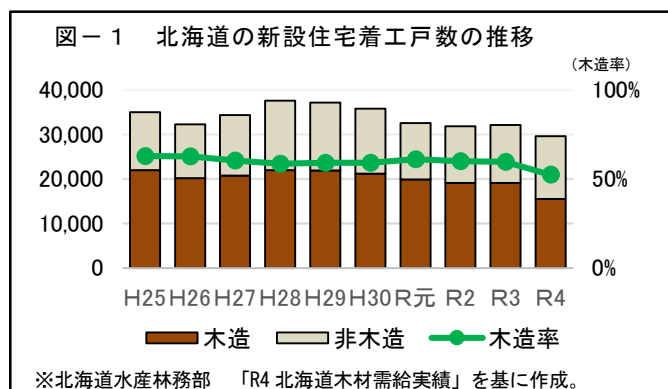
森林は、国土の保全や水源のかん養、生物多様性の保全等、様々な公益的機能を有していますが、近年では地球温暖化の防止の観点から二酸化炭素の吸収源としての期待も大きくなっています。

森林の樹木は、大気中の二酸化炭素を吸収し、炭素を貯蔵する働きがありますが、人工林の高齢化等に伴い、二酸化炭素の森林吸収量は減少傾向で推移しています。

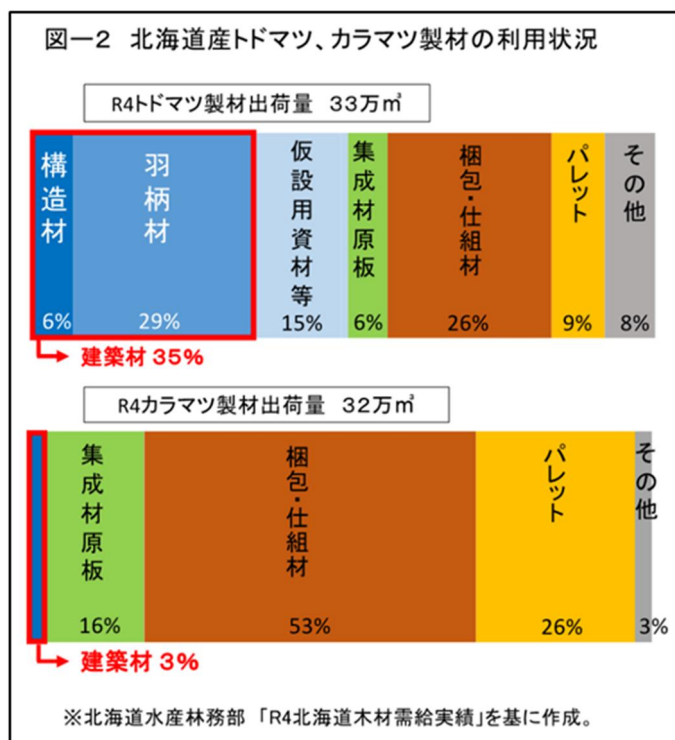
このような中、「2050年カーボンニュートラル」の実現に貢献するためには、「伐って、使って、植えて、育てる」という、資源の循環利用を進めながら森林整備を図るとともに、木材利用も拡大していく必要があります。

また、森林から搬出された木材を建築物等に利用することにより、炭素を長期的に貯蔵することができることから、地域材の建築材利用は大きな意義があるといえます。

これまで、木造の建築物は1～3階建ての低層住宅が約8割を超えていますが、全国的に人口の減少や資材高騰などによって、住宅着工数は減少してきており、北海道においても同様の傾向となっています（図－1）。



また、北海道内における建築材については輸入材の利用が多く、道産材については製材（特に建築材）としての利用が低位（図－2）であり、道産材の利用促進、高付加価値化には、住宅に加え、非住宅建築物の木造・木質化による需要の拡大を進めていかなければならない状況といえます。



道産材を利用することは、北海道における林業の活性化、木材生産から加工、消費までの経済効果、また、生産地から消費地への輸送の効率化や低炭素化等のメリットがあります。そして各地域材を利用して建てた建築物は、その地域のシンボリックな存在・空間としての価値が生まれ、建築主や施設利用者の愛着が深まることもあり、これからの積極的な利用が望まれます。

北海道の森林面積は、554万ha（うち北海道森林管理局所管国有林は304万ha）で、これは、



木NINARU BLDG (札幌市中央区)

- ・ 建築主：株式会社Beppo Corporation
- ・ 構造：鉄骨造（一部木質ハイブリッド構造）
- ・ 規模：地下1階、地上10階
- ・ 設計者：株式会社アトリエオンドー級建築士事務所
- ・ 施工者：熊谷組・住友林業共同企業体
- ・ 敷地面積：139.05㎡
- ・ 延床面積：1,152.02㎡



北海道産カラマツを活用した高層商業ビル。都市部におけるビルの木質化を図るため、7～10階の1時間耐火構造部分に木質ハイブリッド集成材を採用し、その被覆木材としてカラマツを利用している。構造躯体の木材使用量は39.9㎡、炭素固定量は31.8t(CO2ベース)で、これは敷地面積の約7.2倍にあたる広さのカラマツ林が吸収するCO2量に相当します。

(写真提供：住友林業株式会社)

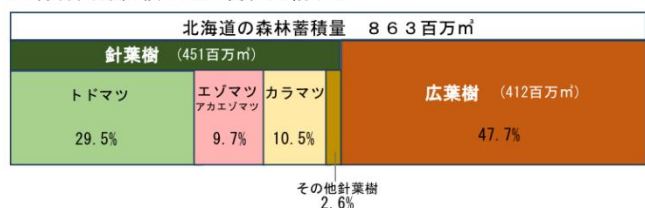
北海道の土地面積の約7割、全国の森林面積の約2割を占めています。また、森林資源蓄積量（図－3）は863百万㎡と豊富であり、この豊かな森林の持つ多面的機能を持続し充実させながら、循環利用できる資源として、トドマツやカラマツなどの道産材を持続的かつ安定的な供給と利用を図ることが重要となっています。

北海道森林管理局では、令和6年度重点取組事項の取組の一つである北海道産木材の需要拡大に向けて、関係機関や関係団体との連携・協力体制を構築して需要拡大を図っていくとともに、国有林材の安定供給に努め、民有林と連携した協調出荷等の実施に必要な条件及び環境整備を進めています。

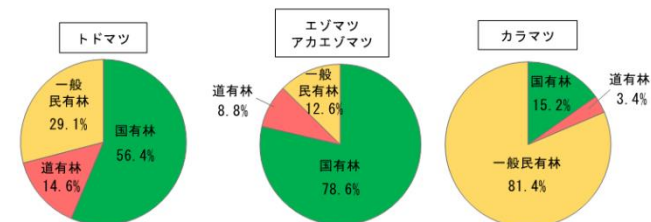
毎年10月は「木材利用推進月間」となっています。この期間のイベントの一つとして10月17日から31日まで北海道森林管理局1階のウッディホールにて道産材利用推進に向けた展示会を実施しますので、機会がありましたらお立寄り下さい。

図－3 北海道の森林資源蓄積量

○森林資源蓄積量及び樹種別構成比



○主な針葉樹の所管別構成比



※「R4北海道林業統計」を基に作成。



令和5年度の展示会の様子